

GA-Z270N-WIFI

GA-H270N-WIFI

ユーザーズマニュアル

改版 1002

12MJ-Z270NWF-1002R

GA-Z270N-WIFI



GA-H270N-WIFI



製品の詳細については、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。



地球温暖化の影響を軽減するために、本製品の梱包材料はリサイクルおよび再使用可能です。GIGABYTEは、環境を保護するためにお客様と協力いたします。

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer,

G.B.T. Technology Trading GmbH

Address: Bullenkoppel 16, 22047 Hamburg, Germany

Declare that the product

Product Type: Motherboard

Product Name: GA-Z270N-WIFI/GA-H270N-WIFI

conforms with the essential requirements of the following directives:

EMC Directive 2014/30/EU:

<input checked="" type="checkbox"/> Conduction & Radiated Emissions:	EN 55022:2010/AC2011
<input checked="" type="checkbox"/> Immunity:	EN 55024:2010
<input checked="" type="checkbox"/> Power-line harmonics:	EN 61000-3-2:2006+A2:2009
<input checked="" type="checkbox"/> Power-line flicker:	EN 61000-3-3:2013

Low voltage Directive 2014/35/EU:

<input checked="" type="checkbox"/> Safety:	EN60950-1:2006+A11:2009+A12:2011+A1:2010+AC:2011+A2:2013 EN 50566:2013
---	---

Radio Equipment Directive 2014/53/EU:

<input checked="" type="checkbox"/> Technical Requirements:	EN 300 328 v1.9.1, EN 301 893 v1.8.1 EN 301 488-1 v1.9.2, EN 301 488-17 v2.2.1 EN 300 440-2 v1.4.1
---	--

RoHS Directive 2011/65/EU

<input checked="" type="checkbox"/> Resinication of use of certain substances in electronic equipment:	This product does not contain any of the restricted substances listed in Annex II, in concentrations and applications banned by the directive.
--	--

CE marking



Signature: Timmy Huang

(Name)

Date: Dec. 9, 2016

Name: Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street

City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (626) 854-9338/ (626) 854-9326

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

**Model Number: GA-Z270N-WIFI
GA-H270N-WIFI**

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109 (a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: Dec. 9, 2016

国別に認証されたワイヤレスモジュール:

United States: FCC: PD98265NG	Indonesia: 46840/SDPPI/2016 4625	South Korea: MSIP-CRM-INT-8265NGW
Canada: IC: 1000M-8265NG	Japan: 003-160104 D160055003 5.15~5.35GHz indoor use only	Taiwan: CCAH16LP3150T2
Australia & New-Zealand: 		China: CMIIT ID: 2016AJ2775 (M)
European Union: 	Serbia: I011 16	Ukraine: 028
India: 2.4GHz: NR-ETA/4791 5GHz: NR-ETA/4792	Singapore: Complies with IDA standards DB 02941	

GIGABYTEのウェブサイトから最新の安全と規制文書を参照してください。

著作権

© 2017 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 著作権所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

免責条項

このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。
このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。

本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

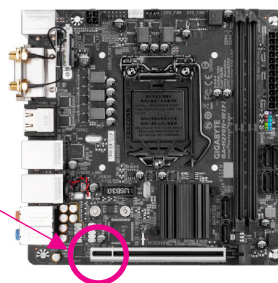
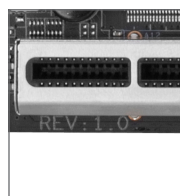
- 製品を素早くセットアップできるように、製品に付属するクイックインストールガイドをお読みください。
- 詳細な製品情報については、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。
- 製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：

<http://www.gigabyte.jp>

マザーボードリビジョンの確認

マザーボードのリビジョン番号は「REV: X.X.」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報をお探しの際は、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。

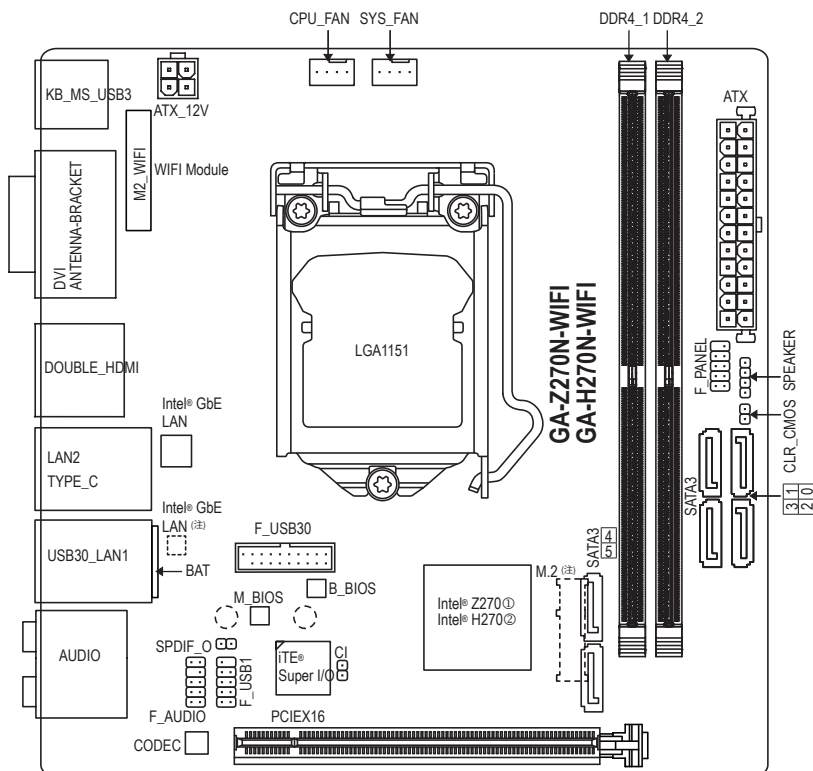
例：



目次

GA-Z270N-WIFI/GA-H270N-WIFI マザーボードのレイアウト.....	5
第 1 章 ハードウェアの取り付け	6
1-1 取り付け手順.....	6
1-2 製品の仕様.....	7
1-3 CPU を取り付ける.....	10
1-4 メモリの取り付け.....	11
1-5 拡張カードを取り付ける.....	11
1-6 背面パネルのコネクター.....	11
1-7 内部コネクター.....	14
第 2 章 BIOS セットアップ.....	21
2-1 起動画面.....	21
2-2 M.I.T.	22
2-3 System (システム).....	28
2-4 BIOS (BIOS の機能).....	29
2-5 Peripherals (周辺機器).....	32
2-6 Chipset (チップセット).....	35
2-7 Power (電力管理).....	36
2-8 Save & Exit (保存して終了).....	38
第 3 章 付録.....	39
3-1 RAID セットを設定する.....	39
3-2 ドライバのインストール.....	42
規制声明.....	43
連絡先.....	48

GA-Z270N-WIFI/GA-H270N-WIFI マザーボードのレイアウト



ボックスの内容

- GA-Z270N-WIFIまたはGA-H270N-WIFIマザーボード
- マザーボードドライバディスク ワイヤレスモジュールドライバーディスク
- ユーザーズマニュアル I/O シールド
- クイックインストールガイド SATA ケーブル (x2)
- アンテナ (x1)

* 上記、ボックスの内容は参照用となります。実際と同梱物はお求めいただいた製品パッケージにより異なる場合があります。また、ボックスの内容については、予告なしに変更する場合があります。

① GA-Z270N-WIFIのみ。

② GA-H270N-WIFIのみ。

(注) コネクタ/チップはマザーボードの背面にあります。









第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付け手順

マザーボードには、静電気放電(ESD)の結果、損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーズマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。







- 取り付け前に、PCケースがマザーボードに適していることを確認してください。
- 取り付けの前に、マザーボードのS/N(シリアル番号)ステッカーまたはディーラーが提供する保証ステッカーを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いて電源を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクタに接続しているとき、しっかりと安全に接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクタには触れないでください。
- マザーボード、CPUまたはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電気放電(ESD)リストストラップを着用することをお勧めします。ESDリストストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、まず金属に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、ハードウェアコンポーネントを静電防止パッドの上に置くか、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを接続するまたは抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高温または湿った環境に設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、ケガにつながる恐れがあります。
- アダプタ、延長電源ケーブルまたはテーブルタップを使用する場合は、その取り付けおよび接続手順を必ずお問い合わせください。






1-2 製品の仕様

 CPU	<ul style="list-style-type: none"> ◆ LGA1151用第7および6世代Intel® Core™ i7 プロセッサー/Intel® Core™ i5 プロセッサー/Intel® Core™ i3 プロセッサー/Intel® Pentium® プロセッサー/Intel® Celeron® プロセッサー対応 (最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。) ◆ L3 キャッシュは CPUにより異なります
 チップセット	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Intel® Z270^①/H270^② Express チップセット
 メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 最大 32 GB のシステムメモリをサポートする DDR4 DIMM ソケット (x2) * Windows 32 ビットオペレーティングシステムの制限のため、4 GB 以上の物理メモリを取り付けた場合、表示される実際のメモリサイズは取り付けた物理メモリのサイズより小さくなります。 ◆ デュアルチャンネルメモリ対応 ◆ DDR4 2400/2133 MHz メモリモジュールのサポート ◆ ECC Un-buffered DIMM 1Rx8/2Rx8 メモリモジュールのサポート (非 ECC モードで動作) ◆ 非 ECC Un-buffered DIMM 1Rx8/2Rx8/1Rx16 メモリモジュールのサポート ◆ XMP (エクストリームメモリプロファイル) メモリモジュールのサポート * GA-H270N-WIFI で 2400 MHz または XMP メモリをご使用の場合、第 7 世代プロセッサを使用する必要があります。 (サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTE の Web サイトを参照ください。)
 オンボードグラフィックス	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 統合グラフィックスプロセッサ-Intel® HDグラフィックスのサポート： <ul style="list-style-type: none"> - DVI-Dポート(x1)、1920x1200@60 Hzの最大解像度をサポートします。 * DVI-Dポートは、変換アダプタによるD-Sub接続をサポートしていません。 - HDMIポート(x2)、4096x2160@24 Hzの最大解像度をサポートします。 * HDMIバージョン1.4をサポート。 ◆ 最大3画面の同時表示をサポート ◆ 最大1 GBまでのメモリをシェア可能
 オーディオ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Realtek® ALC1220 コーデック ◆ ハイディフィニションオーディオ ◆ 2/4/5.1/7.1 チャンネル ◆ S/PDIFアウトのサポート
 LAN	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Intel® GbE LAN チップ (x2) (10/100/1000 Mbit)
 無線通信モジュール	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Wi-Fi 802.11 a/b/g/n/ac、2.4/5GHz デュアルバンドをサポート ◆ BLUETOOTH 4.2, 4.1, BLE, 4.0, 3.0, 2.1+EDR ◆ 11acワイヤレス規格と最大867Mbpsのデータ転送をサポートします。 * 実際のデータ転送速度は、ご使用の機器構成によって異なる場合があります。
 拡張スロット	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PCI Express x16 スロット (x1)、x16 で動作 (PCI Express x16スロットはPCI Express 3.0規格に準拠しています。) ◆ 無線通信モジュール用 M.2 ソケット 1 コネクタ (M2_WIFI) (x1)

① GA-Z270N-WIFIのみ。

② GA-H270N-WIFIのみ。

	ストレージ インター フェイス	<ul style="list-style-type: none"> ◆ チップセット： <ul style="list-style-type: none"> - M.2 コネクタ (x1) (Socket 3、M key、タイプ 2260/2280 SATA および PCIe x4/x2 SSD 対応) - SATA 6Gb/s コネクタ (x6) - RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 10 のサポート * M.2とSATAコネクタのご使用に関する注意事項については、「1-7内部コネクタ」を参照してください。
	USB	<ul style="list-style-type: none"> ◆ チップセット： <ul style="list-style-type: none"> - USB 2.0/1.1ポート (x2) (内部USBヘッダ経由で使用可能) - USB 3.1 Gen 1ポート (x6) (背面パネルに4つのポート、内部USBヘッダを通して2ポートが使用可能) - 背面パネルに USB 3.1 Gen 1 対応USB Type-C™ポート搭載 (x1)
	内部コネ クター	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 24ピンATXメイン電源コネクタ (x1) ◆ 4ピンATX 12V電源コネクタ (x1) ◆ SATA 6Gb/s コネクタ (x6) ◆ マザーボード背面にあるM.2ソケット3コネクタ (x1) ◆ CPU ファンヘッダ (x1) ◆ システムファンヘッダ (x1) ◆ 前面パネルヘッダ (x1) ◆ 前面パネルオーディオヘッダ (x1) ◆ USB 3.1 Gen 1ヘッダ (x1) ◆ USB 2.0/1.1ヘッダ (x1) ◆ S/PDIF アウトヘッダ (x1) ◆ スピーカーヘッダ (x1) ◆ CMOSクリアジャンパ (x1) ◆ PCケース開閉感知用ヘッダ (x1)
	背面パネルの コネクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PS/2 キーボード/マウスポート (x1) ◆ HDMIポート (x2) ◆ SMA アンテナ用コネクタ (2T2R) (x2) ◆ DVI-Dポート (x1) ◆ USB 3.1 Gen 1ポート (x4) ◆ USB 3.1 Gen 1に対応する USB Type-C™ポート (x1) ◆ RJ-45ポート (x2) ◆ 光学 S/PDIF アウトコネクタ (x1) ◆ オーディオジャック (x5) (センター/サブウーファースピーカーアウト、リアスピーカーアウト、ラインイン、ラインアウト、マイクイン)
	I/O コント ローラー	<ul style="list-style-type: none"> ◆ iTE® I/O コントローラーチップ
	ハードウェア モニター	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 電圧検知 ◆ 温度検知 ◆ ファン速度検知 ◆ オーバーヒート警告 ◆ ファン異常検知 ◆ ファン速度コントロール * ファン速度コントロール機能のサポートについては、取り付けたクーラーによって異なります。

	BIOS	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 128 Mbit フラッシュ (x2) ◆ 正規ライセンス版AMI UEFI BIOSを搭載 ◆ DualBIOS™ のサポート ◆ PnP 1.0a、DMI 2.7、WfM 2.0、SM BIOS 2.7、ACPI 5.0
	独自機能	<ul style="list-style-type: none"> ◆ APP Center のサポート <ul style="list-style-type: none"> * App Center で使用可能なアプリケーションは、マザーボードのモデルによって異なります。各アプリケーションのサポート機能もマザーボードのモデルによって異なります。 - 3D OSD - @BIOS - Ambient LED - AutoGreen - BIOS Setup - Color Temperature - Cloud Station - EasyTune - Easy RAID - Fast Boot - Game Boost - ON/OFF Charge - Platform Power Management - Smart Backup - Smart Keyboard - Smart TimeLock - System Information Viewer - USB Blocker - V-Tuner ◆ Q-Flash のサポート ◆ Xpress Install のサポート
	バンドルされたソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Norton® インターネットセキュリティ (OEM バージョン) ◆ Intel® Optane™ Memory Ready ◆ cFosSpeed
	オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Windows 10 64-bitのみ対応 (第7世代 Intel® プロセッサ使用の場合) ◆ Windows 10 64-bit/Windows 8.1 64-bit/Windows 7 32-bit/64-bit (第6世代Intel® プロセッサ使用の場合) <ul style="list-style-type: none"> * Windows 7をインストールする前に、GIGABYTEのWebサイトから「Windows USB Installation Tool」をダウンロードし、Windows 7インストール用USBメモリを作成してWindows 7起動可能なUSBメモリから起動してインストールしてください。
	フォームファクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Mini-ITX フォームファクタ、17.0cm x 17.0cm

* GIGABYTEは、予告なしに製品仕様と製品関連の情報を変更する場合があります。

GA-Z270N-WIFI



GA-H270N-WIFI



CPU、メモリモジュール、SSD、および M.2 デバイスのサポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。



アプリの最新バージョンをダウンロードするには、GIGABYTE の Web サイトのサポートユーザーリテリリストページにアクセスしてください。

1-3 CPU を取り付ける

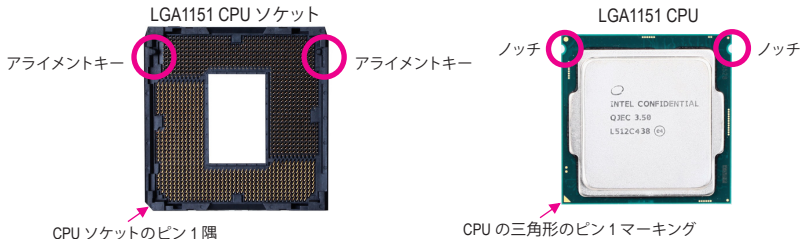


CPU を取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードが CPU をサポートしていることを確認してください。(最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、CPU を取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CPU のピン 1 を探します。CPU は間違った方向には差し込むことができません。(または、CPU の両側のノッチと CPU ソケットのアライメントキーを確認します。)
- CPU の表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。
- CPU クーラーを取り付けずに、コンピュータの電源をオンにしないでください。CPU が損傷する原因となります。
- CPU の仕様に従って、CPU のホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

CPU を取り付ける

マザーボード CPU ソケットのアライメントキーおよび CPU のノッチを確認します。



CPU を取り付ける前に CPU ソケットカバーを取り外さないで下さい。先に CPU を CPU ソケットに取り付けた後に、ロードプレートに戻すと自動的に CPU ソケットカバーは外れます。



ハードウェア取り付けに関する詳細については、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。

1-4 メモリの取り付け



メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトを参照ください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは取り付け位置を間違えないようにノッチが設けられています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

デュアルチャンネルのメモリ設定

このマザーボードには2つのDDR3メモリスロットが装備されており、デュアルチャンネルテクノロジーをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOSはメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルメモリモードは、元のメモリバンド幅を2倍に広げます。

2つのDDR3メモリスロットが2つのチャンネルに分けられ、各チャンネルには次のように1つのメモリスロットがあります：

- ▶▶チャンネル A:DDR4_1
- ▶▶チャンネル B:DDR4_2

CPU制限により、デュアルチャンネルモードでメモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

- メモリモジュールが1枚のみ取り付けられている場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
- 2つのメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを起動する場合には、同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。

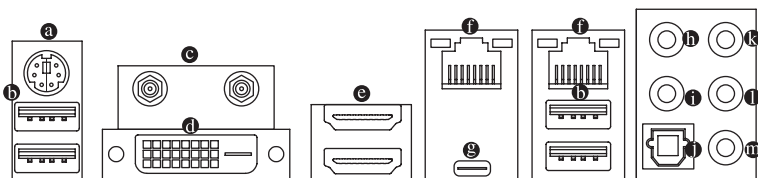
1-5 拡張カードを取り付ける



拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- 拡張カードがマザーボードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。

1-6 背面パネルのコネクター



ⓐ PS/2キーボード/マウスポート

このポートを使用して、PS/2マウスまたはキーボードを接続します。

ⓑ USB 3.1 Gen 1 ポート

USB 3.1 Gen 1 ポートは USB 3.1 Gen 1 仕様をサポートし、USB 2.0 仕様と互換性があります。このポートを USB デバイス用に使用します。

⑨ SMA アンテナコネクタ (2T2R)

このコネクタを用いてアンテナを接続します。



アンテナケーブルをアンテナコネクタに接続し、シグナルの強いところへアンテナを移動します。

⑩ DVI-D ポート (注)

DVI-DポートはDVI-D仕様に準拠しており、1920x1200@60 Hzの最大解像度をサポートします。(サポートされる実際の解像度は使用されるモニタによって異なります。)DVI-D接続をサポートするモニタをこのポートに接続してください。

⑪ HDMI ポート

HDMITM HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE HDMIポートはHDCPに対応し、ドルビーTrueHDおよびDTS HDマスターオーディオ形式をサポートしています。最大192KHz/16ビットの8チャンネルLPCMオーディオ出力もサポートします。このポートを使用して、HDMIをサポートするモニタに接続します。サポートする最大解像度は4096x2160@24 Hzですが、サポートする実際の解像度は使用するモニターに依存します。



- HDMI機器を設置後、必ずデフォルトの音声再生機器をHDMIに設定してください。
- トリプルディスプレイ構成を設定する場合、予めオペレーティングシステムにマザーボードのドライバをインストールする必要があります。

⑫ RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED の状態を表します。

接続速度 LED アクティビティ LED



LAN ポート

接続速度 LED:

状態	説明
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
緑	100 Mbps のデータ転送速度
オフ	10 Mbps のデータ転送速度

アクティビティ LED:

状態	説明
点滅	データの送受信中です
オン	データを送受信していません

⑬ USB Type-CTM ポート

リバーシブル USB ポートは USB 3.1 Gen 1 仕様をサポートし、USB 2.0 仕様と互換性があります。このポートを USB デバイス用に使用します。

⑭ センター/サブウーファースピーカーアウト (オレンジ)

このオーディオ端子を使って、5.1/7.1チャンネルオーディオ構成のセンター/サブウーファースピーカーを接続します。

⑮ リアスピーカーアウト (黒)

この端子は4/5.1/7.1チャンネルのオーディオ構成でリアスピーカーを接続するために使用することができます。

⑯ 光学 S/PDIF アウトコネクタ

このコネクタにより、デジタル光学オーディオをサポートする外部オーディオシステムでデジタルオーディオアウトを利用できます。この機能を使用する前に、オーディオシステムに光学デジタルオーディオインコネクタが装備されていることを確認してください。

⑰ ラインイン (青)

ラインインジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオ端子を使用します。

(注) DVI-D ポートは、変換アダプタによる D-Sub 接続をサポートしていません。

① ラインアウト (緑)

ラインアウト端子です。この音声出力ジャックは、音声増幅機能をサポートしています。より良い音質をご使用いただく場合、このジャックにヘッドフォン/スピーカーに接続することを推奨します。(実際の効果は、使用されているデバイスによって異なる場合があります)。ヘッドフォンまたは2チャンネルスピーカーの場合、このオーディオ端子を使用します。この端子は45.1/7.1チャンネルのオーディオ構成でフロントスピーカーを接続するために使用することができます。

② マイクイン (ピンク)

マイクイン端子です。マイクは、このジャックに接続する必要があります。

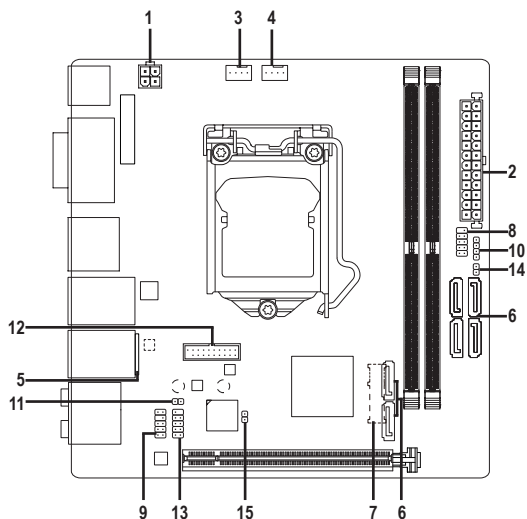


- ライン出力端子のオーディオアンプ機能の設定は、HD Audio Managerアプリケーションにアクセスしてください。
- サイドスピーカーを使用する場合は、ライン入力とマイク入力端子に接続してからHD Audio Managerアプリケーションを使用して、サイドスピーカー出力に設定する必要があります。
- オーディオソフトウェアについては、GIGABYTEのウェブサイトアクセスしてください。



- 背面パネルコネクタに接続されたケーブルを取り外す際は、先に周辺機器からケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ケーブルを取り外す際は、コネクタから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクタ内部でショートする原因となるので、横に揺り動かさないでください。

1-7 内部コネクタ



1) ATX 12V	9) F_AUDIO
2) ATX	10) SPEAKER
3) CPU_FAN	11) SPDIF_O
4) SYS_FAN	12) F_USB30
5) BAT	13) F_USB1
6) SATA3 0/1/2/3/4/5	14) CLR_CMOS
7) M.2	15) CI
8) F_PANEL	



外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください：

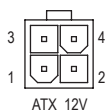
- まず、デバイスが接続するコネクタに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータの電源がオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスを装着した後、コンピュータの電源をオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクタにしっかり接続されていることを確認します。

1/2) ATX_12V/ATX (2x2 12V 電源コネクタと 2x12 メイン電源コネクタ)

電源コネクタを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタは、正しい向きでしか取り付けができないように設計されています。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクタに接続します。12V 電源コネクタは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクタが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。

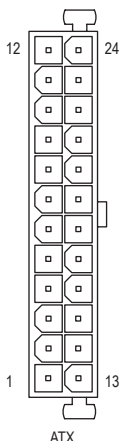


拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします (500W以上)。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。



ATX_12V:

ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V



ATX:

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	3.3V	13	3.3V
2	3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS_ON (ソフト オン/オフ)
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	電源良好	20	NC
9	5VSB (スタンバイ +5V)	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V (2x12 ピン ATX 専用)	23	+5V (2x12 ピン ATX 専用)
12	3.3V (2x12 ピン ATX 専用)	24	GND (2x12 ピン ATX 専用)

3/4) CPU_FAN/SYS_FAN (ファンヘッダ)

このマザーボードのファンヘッダはすべて4ピンです。ほとんどのファンヘッダは、誤挿入防止設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください (黒いコネクタワイヤはアース線です)。マザーボードは CPU ファン速度制御をサポートし、ファン速度制御設計を搭載した CPU ファンを使用する必要があります。最適の放熱を実現するために、PC ケース内部にシステムファンを取り付けることをお勧めします。



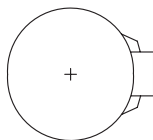
ピン番号	定義
1	GND
2	電圧速度制御
3	検知
4	PWM速度制御



- CPUとシステムを過熱から保護するために、ファンケーブルをファンヘッダに接続していることを確認してください。冷却不足はCPUが損傷したり、システムがハングアップする原因となります。
- これらのファンヘッダは設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンパキャップをかぶせないでください。

5) BAT (バッテリー)

バッテリーは、コンピュータがオフになっているとき CMOS の値 (BIOS 設定、日付、および時刻情報など) を維持するために、電力を提供します。バッテリーの電圧が低レベルまで下がったら、バッテリーを交換してください。CMOS 値が正確に表示されなかったり、失われる可能性があります。



バッテリーのケーブルを外して CMOS 値をクリアすることができます：

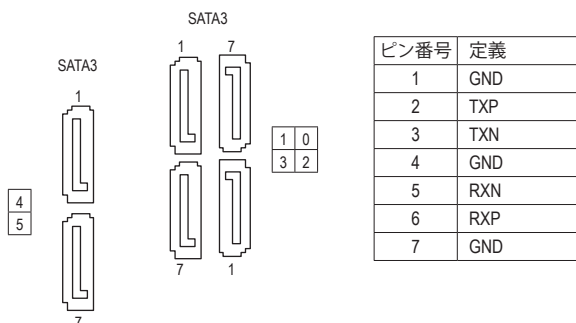
1. コンピュータのパワーをオフにし、電源コードを抜きます。
2. バッテリーケーブルのヘッダからバッテリーケーブルのプラグを抜き、1分間待ちます。
3. バッテリーケーブルを接続します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。



- バッテリーを交換する前に、常にコンピュータのパワーをオフにしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリーを同等のバッテリーと交換します。バッテリーを正しくないモデルと交換すると、破裂する恐れがあります。
- バッテリーを交換できない場合、またはバッテリーのモデルがはっきり分からない場合、購入店または販売店にお問い合わせください。
- バッテリーを取り付けるとき、バッテリーのプラス側 (+) とマイナス側 (-) の方向に注意してください (プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みのバッテリーは、地域の環境規制に従って処理してください。

6) SATA3 0/1/2/3/4/5 (SATA 6Gb/s コネクタ)

SATA コネクタは SATA 6Gb/s に準拠し、SATA 3Gb/s および SATA 1.5Gb/s との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。Intel® チップセットは、RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 10 をサポートします。RAID アレイの構成の説明については、第3章「RAID セットを設定する」を参照してください。



SATAポート ホットプラグを有効にするには、第2章を参照してください、「BIOS-セットアップ」、「周辺機器/SATA And RST Configuration」を参照してください。

7) M.2 (M.2 ソケット3 コネクタ)

M.2 コネクタ (マザーボードの背面にあります) は、M.2 SATA SSD および M.2 PCIe SSD をサポートし、Intel® チップセットを通して RAID 構成をサポートします。M.2 PCIe SSD を M.2 SATA SSD または SATA ハードドライブを用いて RAID セットを構築することはできず、UEFI を用いて RAID セットを構築することができることに注意してください。RAIDアレイの構成の説明については、第3章「RAID セットを設定する」を参照してください。



M.2コネクタにM.2対応SSDを増設する場合、以下の手順に従ってください。

ステップ 1:

スクリュードライバーを使用してマザーボードからネジとナットを緩めてください。取り付け穴の位置を確認してから、最初にナットを締めます。

ステップ 2:

コネクタに斜めの角度でM.2対応SSDをスライドさせます。

ステップ 3:

M.2対応SSDを下に押してからネジで固定します。



インストールするM.2対応SSDを固定する適切な穴を選択し、ネジとナットを締め直してください。

M.2および SATAコネクタをご使用の際の注意事項:

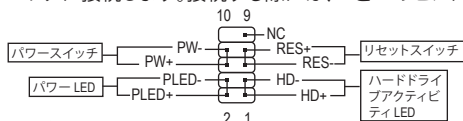
チップセットによるレーン数が限られているため、M.2コネクタに取り付けられているデバイスの種類によって、SATAコネクタは影響を受ける場合があります。M.2コネクタは、SATA30コネクタと帯域幅を共有します。詳細に関しては、次の表をご参照ください。

M.2 SSDの種類	コネクタ					
	SATA3 0	SATA3 1	SATA3 2	SATA3 3	SATA3 4	SATA3 5
M.2 SATA SSD	×	✓	✓	✓	✓	✓
M.2 PCIe x4 SSD	✓	✓	✓	✓	✓	✓
M.2 PCIe x2 SSD	✓	✓	✓	✓	✓	✓
M.2 SSDを使用していない場合	✓	✓	✓	✓	✓	✓

✓ : 利用可能、× : 利用不可

8) F_PANEL (前面パネルヘッダ)

電源スイッチ、リセットスイッチおよびシステム・ステータス・インジケータを下記のピン割り当てに従ってこのヘッダに接続します。接続する際には、+と-のピンに注意してください。



• PLED (電源LED、黄):

システムステータス	LED
S0	オン
S3/S4/S5	オフ

PCケース前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。システムが作動しているとき、LEDはオンになります。システムがS3/S4スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき(S5)、LEDはオフになります。

• PW (パワースイッチ、赤):

PCケース前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます(詳細については、第2章、「BIOSセットアップ」、「電力管理」を参照してください)。

• HD (ハードドライブアクティビティLED、青):

PCケース前面パネルのハードドライブアクティビティLEDに接続します。ハードドライブがデータの読み書きを行っているとき、LEDはオンになります。

• RES (リセットスイッチ、緑):

PCケース前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。

• NC (紫):

接続なし。



前面パネルのデザインは、ケースによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源LED、ハードドライブアクティビティLEDなどで構成されています。ケース前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

9) F_AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

前面パネルのオーディオヘッダは、Intel ハイディフィニションオーディオ (HD) と AC'97 オーディオをサポートします。PCケース前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクタのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクタとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することがあります。

HD 前面パネルオーディオの場合:

ピン番号	定義
1	MIC2_L
2	GND
3	MIC2_R
4	NC
5	LINE2_R
6	検知
7	FAUDIO_JD
8	ピンなし
9	LINE2_L
10	検知

AC'97 前面パネルオーディオの場合:

ピン番号	定義
1	MIC
2	GND
3	MIC/パワー
4	NC
5	ラインアウト(右)
6	NC
7	NC
8	ピンなし
9	ラインアウト(左)
10	NC



- 前面パネルのオーディオヘッダは、標準でHDオーディオをサポートしています。
- オーディオ信号は、前面と背面パネルのオーディオ接続の両方に同時に流れています。
- PCケースの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、単一コネクタの代わりに各ワイヤのコネクタを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、PCケースメーカーにお問い合わせください。

10) SPEAKER (スピーカーヘッダ)

PCケースの前面パネル用スピーカーに接続します。システムは、ビーブコードを鳴らすことでシステムの起動ステータスを報告します。システム起動時に問題が検出されない場合、短いビーブ音が1度鳴ります。



ピン番号	定義
1	VCC
2	NC
3	NC
4	SPK-

11) SPDIF_O (S/PDIF出力用ヘッダ)

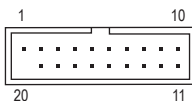
このヘッダはデジタルS/PDIF出力をサポートし、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードやサウンドカードのような特定の拡張カードにS/PDIFデジタルオーディオケーブル (拡張カードに付属) を接続します。例えば、グラフィックスカードの中には、HDMIディスプレイをグラフィックスカードに接続しながら同時にHDMIディスプレイからデジタルオーディオを出力したい場合、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードまでS/PDIFデジタルオーディオケーブルを使用するように要求するものもあります。S/PDIFデジタルオーディオケーブルの接続の詳細については、拡張カードのマニュアルをよくお読みください。



ピン番号	定義
1	SPDIFO
2	GND

12) F_USB30 (USB 3.1 Gen 1 ヘッダ)

ヘッダはUSB 3.1 Gen 1/USB 2.0仕様に準拠し、2つのUSBポートが装備されています。USB 3.1 Gen 1対応2ポートを装備するオプションの3.5"フロントパネルのご購入については、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	VBUS	11	D2+
2	SSRX1-	12	D2-
3	SSRX1+	13	GND
4	GND	14	SSTX2+
5	SSTX1-	15	SSTX2-
6	SSTX1+	16	GND
7	GND	17	SSRX2+
8	D1-	18	SSRX2-
9	D1+	19	VBUS
10	NC	20	ピンなし



USBブラケットを取り付ける前に、USBブラケットが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

13) F_USB1 (USB 2.0/1.1 ヘッダ)

ヘッダは USB 2.0/1.1 仕様に準拠しています。各 USB ヘッダは、オプションの USB ブラケットを介して 2 つの USB ポートを提供できます。オプションの USB ブラケットを購入する場合は、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	電源 (5V)	6	USB DY+
2	電源 (5V)	7	GND
3	USB DX-	8	GND
4	USB DY-	9	ピンなし
5	USB DX+	10	NC



- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB ヘッダに差し込まないでください。
- USB ブラケットを取り付ける前に、USB ブラケットが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

14) CLR_CMOS (CMOSクリアジャンパー)

このジャンパーを使用して BIOS 設定をクリアするとともに、CMOS 値を出荷時設定にリセットします。CMOS 値を消去するには、ドライバーのような金属製品を使用して 2 つのピンに数秒間触れます。



オープン: Normal



ショート: CMOS のクリア



- CMOS 値を消去する前に、常にコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- システムが再起動した後、BIOS 設定を工場出荷時に設定するか、手動で設定してください (Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第 2 章「BIOS セットアップ」を参照してください)。

15) CI (PC ケース開閉感知ヘッダ)

このマザーボードには、PC ケースカバーが取り外された場合に検出する PC ケース検出機能が搭載されています。この機能には、ケース侵入検出設計を施した PC ケースが必要です。



ピン番号	定義
1	信号
2	GND

第 2 章 BIOS セットアップ

BIOS (Basic Input and Output System) は、マザーボード上の CMOS にあるシステムのハードウェアのパラメータを記録します。主な機能には、システム起動、システムパラメータの保存、およびオペレーティングシステムの読み込みなどを行うパワー オンセルフテスト (POST) の実行などがあります。BIOS には、ユーザーが基本システム構成設定の変更または特定のシステム機能の有効化を可能にする BIOS セットアッププログラムが含まれています。

電源をオフにすると、CMOS の設定値を維持するためマザーボードのバッテリーが CMOS に必要な電力を供給します。

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、電源オン時の POST 中に <Delete> キーを押します。BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティのいずれかを使用します。

- Q-Flash により、ユーザーはオペレーティング システムに入ることなく BIOS のアップグレードまたはバックアップを素早く簡単に行えます。
- @BIOS は、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索しダウンロードするとともに BIOS を更新する Windows ベースのユーティリティです。

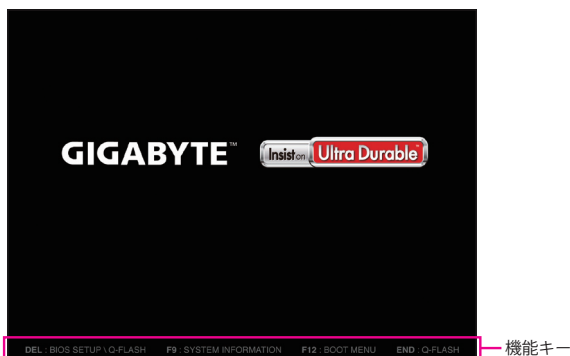


- BIOS の更新は潜在的に危険を伴うため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOS を更新しないことをお勧めします。BIOS の更新は注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。
- システムの不安定またはその他の予期しない結果を防ぐために、初期設定を変更しないことをお勧めします (必要な場合を除く)。誤った BIOS 設定しますと、システムは起動できません。そのようなことが発生した場合は、CMOS 値を既定値にリセットしてみてください。(CMOS 値を消去する方法については、この章の「Load Optimized Defaults」セクションまたは第 1 章にあるバッテリーまたは CMOS ジャンパの消去の概要を参照してください。)

2-1 起動画面

コンピュータが起動するとき、次の起動ロゴ画面が表示されます。

(サンプル BIOS バージョン: GA-Z270N-WIFI F1a)



<F2>キーを使用することにより、2つの異なるBIOSのモードを切り替えることができます。Classic Setup モードは、詳細なBIOS設定をすることができます。キーボードの矢印キーを押すことにより設定項目を切り替えることができ、<Enter>を押すことでサブメニューに入ります。また、マウスを使用して項目に選択することもできます。Easy モードは、迅速に現在のシステム情報を表示したり、最適なパフォーマンスを引き出すために調整を行うことができます。Easy Modeでは、マウスを使用して設定や設定画面項目間の移動を行うことができます。



- システムが安定しないときは、**Load Optimized Defaults** を選択してシステムをその既定値に設定します。
- 本章で説明された BIOS セットアップメニューは参考用です、項目は、BIOS のバージョンにより異なります。

2-2 M.I.T.



オーバークロック設定による安定動作については、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック設定を間違えて設定して動作させるとCPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐久年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。(誤ったBIOS設定をしますと、システムは起動できません。そのような場合は、CMOS 値を消去して既定値にリセットしてみてください。)

▶ Advanced Frequency Settings (周波数の詳細設定)

☞ CPU Base Clock

CPUベースクロックを 0.01 MHz 刻みで手動で設定します。(既定値:Auto)

重要:CPU 仕様に従って CPU 周波数を設定することを強くお勧めします。

☞ Host Clock Value

CPU Base Clock設定に応じて値は変化します。

☞ Graphics Slice Ratio ^(注)

Graphics Slice Ratio を設定できます。

☞ Graphics UnSlice Ratio ^(注)

Graphics UnSlice Ratio を設定できます。

☞ CPU Upgrade ^{(注)①}

CPUの周波数を設定できます。設定は搭載するCPUによって異なります。(既定値:Auto)

☞ CPU Clock Ratio

取り付けた CPU のクロック比を変更します。調整可能範囲は、取り付けの CPU によって異なります。

☞ CPU Frequency

現在作動している CPU 周波数を表示します。

☞ FCLK Frequency for Early Power On^①

FCLKの周波数を設定できます。オプション:Normal(800Mhz)、1GHz、400MHz。(既定値:Normal (800Mhz))

① GA-Z270N-WIFIのみ。

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、Intel® の Web サイトにアクセスしてください。

▶ **Advanced CPU Core Settings (CPUの詳細設定)**

- **CPU Clock Ratio, CPU Frequency, FCLK Frequency for Early Power On^①**
上の設定は **Advanced Frequency Settings** メニューの同じ項目と同期しています。
 - **AVX Offset ^(注)**
AVX offset は、AVX 比の設定ができます。
 - **Uncore Ratio**
CPU の Uncore ratio を設定できます。調整可能範囲は、使用される CPU によって異なります。
 - **Uncore Frequency**
現在の CPU Uncore 周波数を表示します。
 - **CPU Flex Ratio Override**
CPU Flex Ratio を有効または無効にします。CPU Clock Ratio が **Auto** に設定されている場合、CPU Clock Ratio の最大値は CPU Flex Ratio の設定内容に基づいて設定されます。(既定値: Disabled)
 - **CPU Flex Ratio Settings**
CPU Flex Ratio を設定することができます。調整可能な範囲は、CPU により異なる場合があります。
 - **Intel(R) Turbo Boost Technology ^(注)**
Intel® CPU Turbo Boost テクノロジー機能の設定をします。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
 - **Turbo Ratio ^(注)**
さまざまな数のアクティブなコアに対して、CPU Turbo比を設定できます。**Auto** では、CPU仕様に従って CPU Turbo 比を設定します。(既定値: Auto)
 - **Power Limit TDP (Watts) / Power Limit Time**
CPU Turbo モードに対する電力制限、および、指定した電力制限で動作する時間を設定することができます。指定された値を超過する場合、CPU は、電力を低減するために自動的にコア周波数を下げます。**Auto** では、CPU 仕様に従って電力制限を設定します。(既定値: Auto)
 - **Core Current Limit (Amps)**
CPU Turbo モードの電流制限を設定できます。CPU の電流がこれらの指定された電流制限を超えると、CPU は電流を削減するためにコア周波数を自動的に低下します。**Auto** では、CPU 仕様に従って電力制限を設定します。(既定値: Auto)
 - **No. of CPU Cores Enabled ^(注)**
使用する CPU コアを選択します。(選択可能な CPU コア数については、CPU によって異なります。) **Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
 - **Hyper-Threading Technology ^(注)**
この機能をサポートする Intel® CPU 使用時にマルチスレッディングテクノロジーの有効/無効を切り替えます。この機能は、マルチプロセッサモードをサポートするオペレーティングシステムでのみ動作します。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
 - **Intel(R) Speed Shift Technology (Intel® Speed Shift Technology) ^(注)**
Intel® Speed Shift Technology の有効/無効を切り替えます。この機能を有効化すると、プロセッサの周波数がより速く上昇し、システムの反応が向上します。(既定値: Disabled)
 - **CPU Enhanced Halt (C1E) ^(注)**
システム一時停止状態時の省電力機能で、Intel® CPU Enhanced Halt (C1E) 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ① GA-Z270N-WIFIのみ。

(注) この機能をサポートする CPU を取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

- **C3 State Support** (注1)
 システムが停止状態の際、CPUのC3モード動作の有効/無効の設定ができます。有効になっているとき、CPUコア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C3状態は、C1より省電力状態がはるかに強化されています。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **C6/C7 State Support** (注1)
 システムが停止状態の際、CPUのC6/C7モード動作の有効/無効の設定ができます。有効になっているとき、CPUコア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C6/C7状態は、C3より省電力状態がはるかに強化されています。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **C8 State Support** (注1)
 システムが停止状態の際、CPUのC8モード動作の有効/無効の設定ができます。有効になっているとき、CPUコア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C8状態は、C6/C7より省電力状態がはるかに強化されています。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **Package C State Limit** (注1)
 プロセッサ C-state(省電力状態)の上限を指定できます。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **CPU Thermal Monitor** (注1)
 CPU 過熱保護機能である Intel® Thermal Monitor 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPUが過熱すると、CPUコア周波数と電圧が下がります。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **CPU EIST Function** (注1)
 Enhanced Intel® Speed Step 技術 (EIST) の有効/無効を切り替えます。CPU負荷によっては、Intel® EIST技術はCPU電圧とコア周波数をダイナミックかつ効率的に下げ、消費電力と熱発生量を低下させます。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **Voltage Optimization**
 消費電力を低減するために、動作電圧の最適化する設定を決定します。(既定値: Disabled)
- **RSR**
 CPUの電圧/温度が高すぎる場合、自動的にCPUターボ倍率を下げる設定を決定します。(既定値: Enabled)
- **Hardware Prefetcher**
 CPUがメモリの等間隔データの連続アクセスパターンを検出するとメモリからL2キャッシュに連続データをプリフェッチする機能のEnabled/Disabledに設定します。(既定値: Enabled)
- **Adjacent Cache Line Prefetch**
 メモリからL2キャッシュラインへ対象データをフェッチするとき、隣接するデータもフェッチする機能のEnabled/Disabledを設定します。(既定値: Enabled)
- **Extreme Memory Profile (X.M.P.)**(注2)
 有効にすると、BIOSがXMPメモリモジュールのSPDデータを読み取り、メモリのパフォーマンスを強化することが可能です。

 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - ▶▶ Profile1 プロファイル 1 設定を使用します。
 - ▶▶ Profile2 (注2) プロファイル 2 設定を使用します。

(注1) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、Intel®のWebサイトにアクセスしてください。

(注2) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

- **System Memory Multiplier**
システムメモリマルチプライヤの設定が可能になります。**Auto** は、メモリの SPD データに従ってメモリマルチプライヤを設定します。(既定値:Auto)
- **Memory Ref Clock**
メモリの周波数を手動で調整できます。(既定値:Auto)
- **Memory Odd Ratio(100/133 or 200/266)**
有効化すると、Qclkが奇数の周波数値で設定可能になります。(既定値:Auto)
- **Memory Frequency (MHz)**
最初のメモリ周波数値は使用されるメモリの標準の動作周波数で、2 番目の値は **System Memory Multiplier** 設定に従って自動的に調整されるメモリ周波数です。
- ▶ **Advanced Memory Settings (メモリの詳細設定)**
- **Extreme Memory Profile (X.M.P.)^(注)、System Memory Multiplier、Memory Ref Clock、Memory Odd Ratio (100/133 or 200/266)、Memory Frequency(MHz)**
上の項目の設定は Advanced Frequency Settings メニューの同じ項目と同期しています。
- **Memory Boot Mode^(注)**
メモリチェックと動作方法の設定を行います。
 - ▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。(既定値)
 - ▶ Normal BIOSは自動的にメモリのトレーニングを行います。システムが不安定になったり起動できなくなった場合、CMOSクリアし、BIOS設定内容をリセットしますのでご注意ください。(CMOSクリアする方法については、第1章のバッテリー/CMOSクリアジャンパーの紹介を参照してください。)
 - ▶ Enable Fast Boot 高速メモリブート可能なメモリ検出を行います。
 - ▶ Disable Fast Boot ブート時にメモリ1本1本の順にチェックを行います。
- **Memory Enhancement Settings (メモリの拡張設定)**
メモリーパフォーマンスの設定を行います:Normal (基本性能)、Relax OC、Enhanced Stability、およびEnhanced Performance。(既定値:Normal)
- **Memory Timing Mode**
Manualと**Advanced Manual** では、**Memory Multiplier Tweaker**、**Channel Interleaving**、**Rank Interleaving**、および以下のメモリのタイミング設定を構成できます。オプション:Auto (既定値)、Manual、Advanced Manual。
- **Profile DDR Voltage**
Non-XMPメモリーモジュール、または**Extreme Memory Profile (X.M.P.)**を使用する場合は**Disabled**に設定され、その値は、メモリの仕様に応じて表示されます。**Extreme Memory Profile (X.M.P.)**が**Profile 1**または**Profile 2**に設定されているとき、この項目はXMPメモリのSPDデータに基づく値を表示します。
- **Memory Multiplier Tweaker**
様々なレベルのメモリの自動調整を提供します。(既定値:Auto)
- **Channel Interleaving**
メモリチャンネルのインターリーピングの有効/無効を切り替えます。**Enabled** (有効) 設定にすると、システムはメモリのさまざまなチャンネルに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

(注) この機能をサポートするCPUとメモリーモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

☞ **Rank Interleaving**

メモリアンクのインターリーブの有効/無効を切り替えます。**Enabled** (有効) 設定すると、システムはメモリのさまざまなランクに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

▶ **Channel A/B Memory Sub Timings**

このサブメニューでは、メモリの各チャンネルのメモリ タイミング設定を行います。タイミング設定の各画面は、**Memory Timing Mode** が **Manual** または **Advanced Manual** の場合のみ設定可能です。注:メモリのタイミングを変更後、システムが不安定になったり起動できなくなることがあります。その場合、最適化された初期設定を読み込むかまたは CMOS 値を消去することでリセットしてみてください。

▶ **Advanced Voltage Settings (詳細な電圧設定)**

▶ **Advanced Power Settings (高度な電力設定)**

☞ **CPU Vcore Loadline Calibration**

CPU Vcore 電圧のロードラインキャリブレーションを設定できます。より高いレベルを選択すると、高負荷状態での BIOS の設定内容と CPU Vcore 電圧がより一致します。**Auto** は、BIOS にこの設定を自動的に設定させ、Intel の仕様に従って電圧を設定します。(既定値:Auto)

☞ **VAXG Loadline Calibration**

CPU VAXG 電圧のロードラインキャリブレーションを設定できます。より高いレベルを選択すると、高負荷状態での BIOS の設定内容と CPU VAXG 電圧がより一致します。**Auto** は、BIOS にこの設定を自動的に設定させ、Intel の仕様に従って電圧を設定します。(既定値:Auto)

▶ **CPU Core Voltage Control (CPU コア電圧制御)**

このセクションでは、CPU 電圧制御オプションについて記載します。

▶ **Chipset Voltage Control (チップセットの電圧制御)**

このセクションでは、チップセット電圧制御オプションについて記載します。

▶ **DRAM Voltage Control (DRAM 電圧制御)**

このセクションでは、メモリ電圧制御オプションについて記載します。

▶ **PC Health Status**

☞ **Reset Case Open Status**

- ▶ Disabled 過去のケース開閉状態の記録を保持または消去します。(既定値)
- ▶ Enabled 過去のケース開閉状態の記録をクリアします。次回起動時、**Case Open** フィールドに「No」と表示されます。

☞ **Case Open**

マザーボードの CI ヘッドに接続されたケース開閉の検出状態を表示します。システムケースのカバーが外れている場合、このフィールドが「Yes」になります。そうでない場合は「No」になります。ケースの開閉状態の記録を消去したい場合は、**Reset Case Open Status** を **Enabled** にして、設定を CMOS に保存してからシステムを再起動します。

☞ **CPU Vcore/CPU VCCSA/DRAM Channel A/B Voltage/+3.3V/+5V/+12V/CPU VAXG**

現在のシステム電圧を表示します。

▶ Miscellaneous Settings (その他の設定)

☞ Max Link Speed

PCI Expressスロットの動作モードをGen 1、Gen 2、またはGen 3に設定できます。実際の動作モードは、各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

☞ 3DMark01 Enhancement

一部の従来のベンチマーク性能を向上させることができます。(既定値:Disabled)

▶ Smart Fan 5 Settings

☞ Monitor

ターゲットを切り替えることによってモニタ表示することができます。(既定値:CPU FAN)

☞ Fan Speed Control

ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。

▶▶ Normal 温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、System Information Viewerでファン速度を調整することができます。(既定値)

▶▶ Silent ファンを低速度で作動します。

▶▶ Manual グラフ上でファンの速度制御を設定ができます。

▶▶ Full Speed ファンを全速で作動します。

☞ Fan Control Use Temperature Input

ファン速度コントロール用の基準温度を選択できます。

☞ Temperature Interval

ファン速度変動用の温度間隔を選択できます。

☞ Fan Control Mode

▶▶ Auto BIOSは、取り付けられたファン用ファンのタイプを自動的に検出し、最適の制御モードを設定します。(既定値)

▶▶ Voltage 電圧モードは、3ピンのファン用ファンです。

▶▶ PWM PWMモードは、4ピンのファン用ファンです。

☞ Temperature

選択された領域の、現在の温度を表示します。

☞ Fan Speed

現在のファン速度を表示します。

☞ Temperature Warning Control

温度警告のしきい値を設定します。温度がしきい値を超えた場合、BIOS が警告音を発します。オプション:Disabled (既定値)、60°C/140°F、70°C/158°F、80°C/176°F、90°C/194°F。

☞ Fan Fail Warning

ファンが接続されているか失敗したかで、システムは警告を出します。警告があった場合、ファンの状態またはファンの接続を確認してください。(既定値:Disabled)

2-3 System (システム)



このセクションでは、マザーボード モデルおよび BIOS バージョンの情報を表示します。また、BIOS が使用する既定の言語を選択して手動でシステム時計を設定することもできます。

Access Level

使用するパスワード保護のタイプによって現在のアクセスレベルを表示します。(パスワードが設定されていない場合、既定では **Administrator** (管理者) として表示されます。) 管理者レベルでは、すべての BIOS 設定を変更することが可能です。ユーザーレベルでは、すべてではなく特定の BIOS 設定のみが変更できます。

System Language

BIOS が使用する既定の言語を選択します。

System Date

システムの日付を設定します。<Enter> で Month (月)、Date (日)、および Year (年) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

System Time

システムの時計を設定します。時計の形式は時、分、および秒です。例えば、1 p.m. は 13:00:00 です。<Enter> で Hour (時間)、Minute (分)、および Second (秒) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

2-4 BIOS (BIOS の機能)



- **Bootup NumLock State**
POST後にキーボードの数字キーパッドにあるNumLock機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: On)
- **Security Option**
パスワードは、システムが起動時、またはBIOSセットアップに入る際に指定します。このアイテムを設定した後、BIOSメインメニューの **Administrator Password/User Password** アイテムの下でパスワードを設定します。
 - ▶ Setup パスワードはBIOSセットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。
 - ▶ System パスワードは、システムを起動したりBIOSセットアッププログラムに入る際に要求されます。(既定値)
- **Full Screen LOGO Show**
システム起動時に、GIGABYTEロゴの表示設定をします。**Disabled** にすると、システム起動時にGIGABYTEロゴをスキップします。(既定値: Enabled)
- **Boot Option Priorities**
使用可能なデバイスから全体の起動順序を指定します。起動デバイスリストでは、GPT形式をサポートするリムーバブルストレージデバイスの前に「UEFI:」が付きます。GPTパーティションをサポートするオペレーティングシステムから起動するには、前に「UEFI:」が付いたデバイスを選択します。
また、Windows 7 (64 ビット) など GPT パーティションをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合は、Windows 7 (64 ビット) インストールディスクを挿入し前に「UEFI:」が付いた光学ドライブを選択します。
- **Hard Drive/CD/DVD ROM Drive/Floppy Drive/Network Device BBS Priorities**
ハードドライブ、光ドライブ、フロッピーディスクドライブ、LAN機能からの起動をサポートするデバイスなど特定のデバイスタイプの起動順序を指定します。このアイテムで<Enter>を押すと、接続された同タイプのデバイスを表すサブメニューに入ります。上記タイプのデバイスが1つでもインストールされていれば、この項目は表示されます。

☞ **Fast Boot**

Fast Bootを有効または無効にしてOSの起動処理を短縮します。**Ultra Fast**では起動速度が最速になります。(既定値: Disabled)

☞ **SATA Support**

▶▶ All Sata Devices オペレーティングシステムおよびPOST中は、全SATAデバイスは機能します。(既定値)

▶▶ Last Boot HDD Only 以前の起動ドライブを除いて、すべてのSATAデバイスは、OS起動プロセスが完了するまで無効になります。

この項目は、**Fast Boot**が**Enabled**または**Ultra Fast**に設定された場合のみ設定可能です。

☞ **VGA Support**

起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。

▶▶ Auto 従来のオプションROMのみを有効にします。

▶▶ EFI Driver EFIオプションROMを有効にします。(既定値)

この項目は、**Fast Boot**が**Enabled**または**Ultra Fast**に設定された場合のみ設定可能です。

☞ **USB Support**

▶▶ Disabled OSブートプロセスが完了するまで、全USBデバイスは無効になります。

▶▶ Full Initial オペレーティングシステムおよびPOST中は、全USBデバイスは機能します。

▶▶ Partial Initial OSブートプロセスが完了するまで、一部のUSBデバイスは無効になります。(既定値)

Fast Bootが**Enabled**に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot**が**Ultra Fast**に設定されている場合、この機能は無効になります。

☞ **PS2 Devices Support**

▶▶ Disabled OSブートプロセスが完了するまで、全PS/2デバイスは無効になります。

▶▶ Enabled オペレーティングシステムおよびPOST中は、全PS/2デバイスは機能します。(既定値)

Fast Bootが**Enabled**に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot**が**Ultra Fast**に設定されている場合、この機能は無効になります。

☞ **NetWork Stack Driver Support**

▶▶ Disabled ネットワークからのブートを無効にします。(既定値)

▶▶ Enabled ネットワークからのブートを有効にします。

この項目は、**Fast Boot**が**Enabled**または**Ultra Fast**に設定された場合のみ設定可能です。

☞ **Next Boot After AC Power Loss**

▶▶ Normal Boot 電源復帰後に通常起動をします。(既定値)

▶▶ Fast Boot 電源復帰後もFast Boot設定を維持します。

この項目は、**Fast Boot**が**Enabled**または**Ultra Fast**に設定された場合のみ設定可能です。

☞ **Mouse Speed**

マウスカーソルの移動速度を設定します。(既定値: 1 X)

☞ **Windows 8/10 Features**

インストールするオペレーティングシステムを選択することができます。(既定値: Other OS)

☞ **CSM Support**

従来のPC起動プロセスをサポートするには、UEFI CSM (Compatibility Software Module) を有効または無効にします。

▶▶ Enabled UEFI CSMを有効にします。(既定値)

▶▶ Disabled UEFI CSMを無効にし、UEFI BIOS起動プロセスのみをサポートします。

Windows 8/10 Featuresが**Windows 8/10**または**Windows 8/10 WHQL**に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **LAN PXE Boot Option ROM**

LANコントローラーの従来のオプションROMを有効にすることができます。(既定値:Disabled)
CSM Support が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Storage Boot Option Control**

ストレージデバイスコントローラーについて、UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

- ▶▶ Do not launch オプションROMを無効にします。
- ▶▶ Legacy レガシーのオプションROMのみを有効にします。(既定値)
- ▶▶ UEFI UEFIのオプションROMのみを有効にします。

CSM Support が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Other PCI devices**

LAN、ストレージデバイス、およびグラフィックスROMなどを起動させる設定ができます。UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

- ▶▶ Do not launch オプションROMを無効にします。
- ▶▶ Legacy レガシーのオプションROMのみを有効にします。
- ▶▶ UEFI UEFIのオプションROMのみを有効にします。(既定値)

CSM Support が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Administrator Password**

管理者パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。ユーザー パスワードと異なり、管理者パスワードではすべての BIOS 設定を変更することが可能です。

☞ **User Password**

ユーザーパスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。しかし、ユーザーパスワードでは、変更できるのはすべてではなく特定の BIOS 設定のみです。

パスワードをキャンセルするには、パスワード項目で <Enter> を押します。パスワードを求められたら、まず正しいパスワードを入力します。新しいパスワードの入力を求められたら、パスワードに何も入力しないで <Enter> を押します。確認を求められたら、再度 <Enter> を押します。

注:ユーザーパスワードを設定する前に、最初に管理者パスワードを設定してください。

☞ **Secure Boot**

セキュアブートを有効または無効設定することができます。

2-5 Peripherals (周辺機器)



- **CPU PCIE x16 Switch**①
PCIEX16スロットの帯域幅を分割することができます。(既定値:1x16)
- **Initial Display Output**
取り付けた PCI Express グラフィックスカード、またはオンボードグラフィックスから、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。
 - ▶ IGFX 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。
 - ▶ PCIe 1 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX16 スロットにあるグラフィックカードを設定します。(既定値)
- **OnBoard LAN Controller (LAN2)**
オンボードLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製増設用ネットワークカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。
- **EZ RAID**
素早くRAID設定を可能にします。RAIDアレイの構成の説明については、第3章「RAID セットを設定する」を参照してください。
- **Ambient LED**
オンボードオーディオLED機能の有効/無効を切り替えます。(既定値:On)
- **Intel Platform Trust Technology (PTT)**
Intel® PTT テクノロジーの有効/無効を切り替えます。(既定値:Disabled)
- ▶ **OffBoard SATA Controller Configuration**
取り付けられている場合、M.2 PCIe SSD に関する情報を表示します。
- ▶ **Intel(R) Bios Guard Technology**
BIOSを悪意のある攻撃から保護する Intel® BIOS ガード機能を有効または無効にします。

① GA-Z270N-WIFIのみ。

▶ Network Stack Configuration

☞ Network Stack

Windows Deployment ServicesサーバーのOSのインストールなど、GPT形式のOSをインストールするためのネットワーク起動の有効/無効を切り替えます。(既定値:Disabled)

☞ Ipv4 PXE Support

IPv4 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ Ipv4 HTTP Support

IPv4のHTTPブートサポートを有効または無効に設定します。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ Ipv6 PXE Support

IPv6 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ Ipv6 HTTP Support

IPv6のHTTPブートサポートを有効または無効に設定します。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ PXE boot wait time

PXEブートをキャンセルするための、<Esc>キー入力待ち時間を設定できます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。(既定値:0)

☞ Media detect count

外部メディアの存在を確認する回数を設定できます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。(既定値:1)

▶ NVMe Configuration

取り付けられている場合、M.2 NVMe PCIe SSD に関する情報を表示します。

▶ USB Configuration

☞ Legacy USB Support

USB キーボード/マウスを MS-DOS で使用できるようにします。(既定値:Enabled)

☞ XHCI Hand-off

XHCIハンドオフに対応していないOSでも、XHCIハンドオフ機能を有効/無効に設定できます。(既定値:Disabled)

☞ USB Mass Storage Driver Support

USBストレージデバイスの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)

☞ Port 60/64 Emulation

入出力ポート 64h および 60h についてエミュレーションの有効/無効を切り替えます。MS-DOSまたはUSB デバイスをネイティブでサポートしていないオペレーティングシステムでUSB キーボードまたはマウスをフル レガシ サポートするにはこれを有効にします。(既定値:Enabled)

☞ Mass Storage Devices

接続されたUSB大容量デバイスのリストを表示します。この項目は、USBストレージデバイスがインストールされた場合のみ表示されます。

▶ **SATA And RST Configuration**

○ **SATA Controller(s)**

統合されたSATAコントローラーの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

○ **SATA Mode Selection**

チップセットに統合されたSATAコントローラー用のRAIDの有効/無効を切り替えるか、SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。

▶▶ Intel RST Premium With Intel Optane System Acceleration SATAコントローラーのRAID機能を有効化します。

▶▶ AHCI SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI) は、ストレージドライバがNCQ (ネイティブ・コマンド・キューイング) およびホットプラグなどの高度なシリアルATA機能を有効にできるインターフェイス仕様です。(既定値)

○ **Aggressive LPM Support**

Chipset SATAコントローラに対する省電力機能であるALPM (アグレッシブリンク電源管理) を有効または無効にします。(既定値: Enabled)

○ **Port 0/1/2/3/4/5**

各SATAポートを有効または無効にします。(既定値: Enabled)

○ **Hot plug**

各SATAポートのホットプラグ機能を有効または無効にします。(既定値: Disabled)

○ **Configured as eSATA**

追加SATAデバイスの有効/無効を切り替えます。

2-6 Chipset (チップセット)



- **VT-d** (注)
Directed I/O 用 Intel® Virtualization テクノロジーの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
- **Internal Graphics**
オンボードグラフィックス機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Auto)
- **DVMT Pre-Allocated**
オンボードグラフィックスのメモリサイズを設定できます。オプション: 32M~1024M。(既定値: 32M)
- **DVMT Total Gfx Mem**
オンボードグラフィックスのDVMTメモリサイズを割り当てることができます。オプション: 128M、256M、MAX。(既定値: 256M)
- **Audio Controller**
オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製拡張オーディオカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。
- **PCH LAN Controller (LAN1)**
オンボードLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製増設用ネットワークカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。
- **Wake on LAN Enable**
呼び起こしLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
- **High Precision Timer**
High Precision Event Timer (HPET) の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
- **IOAPIC 24-119 Entries**
この機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、IntelのWebサイトにアクセスしてください。

2-7 Power (電力管理)



- Platform Power Management
有効またはアクティブ状態の電源管理機能(ASPM)を無効にします。(既定値: Disabled)
- PEG ASPM
CPUのPEGバスに接続されたデバイスのためのASPMモードを設定することができます。この設定項目は、**Platform Power Management**が**Enabled**に設定されている場合にのみ設定が可能です。(既定値: Enabled)
- PCH ASPM
チップセットのPCI Expressバスに接続されたデバイスのためのASPMモードを設定することができます。この設定項目は、**Platform Power Management**が**Enabled**に設定されている場合にのみ設定が可能です。(既定値: Enabled)
- DMI ASPM
CPU側およびDMIリンクのチップセット側の両方にASPMモードを設定することができます。この設定項目は、**Platform Power Management**が**Enabled**に設定されている場合にのみ設定が可能です。(既定値: Enabled)
- AC BACK
AC 電源損失から電源復帰した後のシステム状態を決定します。
 - ▶▶ Always Off AC 電源が戻ってもシステムの電源はオフのままです。(既定値)
 - ▶▶ Always On AC 電源が戻るとシステムの電源はオンになります。
 - ▶▶ Memory AC 電源が戻ると、システムは既知の最後の稼働状態に戻ります。
- Power On By Keyboard
PS/2 キーボードのからの入力によりシステムの電源をオンにすることが可能です。
注: この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。
 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - ▶▶ Any Key キーボードのいずれかのキーを押してシステムの電源をオンにします。
 - ▶▶ Keyboard 98 Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押してシステムの電源をオンにします。
 - ▶▶ Password 1-5 文字でシステムをオンにするためのパスワードを設定します。

☞ **Power On Password**

Power On By Keyboard が **Password** に設定されているとき、パスワードを設定します。

このアイテムで <Enter> を押して 5 文字以内でパスワードを設定し、<Enter> を押して受け入れます。システムをオンにするには、パスワードを入力し <Enter> を押します。

注：パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。

☞ **Power On By Mouse**

PS/2 マウスからの入力により、システムをオンにします。

注：この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ▶▶ Move マウスを移動してシステムの電源をオンにします。
- ▶▶ Double Click マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムのパワーがオンになります。

☞ **ErP**

S5 (シャットダウン) 状態でシステムの消費電力を最小に設定します。(既定値: Disabled)

注：このアイテムを **Enabled** に設定すると、次の機能が使用できなくなります。アラームタイマーによる復帰、PME イベントからの起動、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン、LAN からの起動。

☞ **Soft-Off by PWR-BTTN**

電源ボタンで MS-DOS モードのコンピュータの電源をオフにする設定をします。

- ▶▶ Instant-Off 電源ボタンを押すと、システムの電源は即時にオフになります。(既定値)
- ▶▶ Delay 4 Sec. パワーボタンを 4 秒間押し続けると、システムはオフになります。パワーボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。

☞ **Power Loading**

ダミーローディング機能の有効/無効を切り替えます。パワーサプライユニットのローディングが低いためにシステムのシャットダウンや起動に失敗する場合は、有効に設定してください。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

☞ **Resume by Alarm**

任意の時間に、システムの電源をオンに設定します。(既定値: Disabled)

有効になっている場合、以下のように日時を設定してください：

- ▶▶ Wake up day: ある月の毎日または特定の日の特定の時間にシステムをオンにします。
- ▶▶ Wake up hour/minute/second: 自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。

注：この機能を使う際は、オペレーティングシステムからの不適切なシャットダウンまたは AC 電源の取り外しはしないで下さい。そのような行為をした場合、設定が有効にならないことがあります。

☞ **RC6(Render Standby)**

オンボードグラフィックスをスタンバイモードに入れて消費電力を削減するかどうかを決定できます。(既定値: Enabled)

2-8 Save & Exit (保存して終了)



- ☞ **Save & Exit Setup**

この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択します。これにより、CMOS の変更が保存され、BIOS セットアッププログラムを終了します。**No** を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。
- ☞ **Exit Without Saving**

この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。**No** を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。
- ☞ **Load Optimized Defaults**

この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択して BIOS の最適な初期設定を読み込みます。BIOS の初期設定は、システムが最適な状態で稼働する手助けをします。BIOS のアップデート後または CMOS 値の消去後には必ず最適な初期設定を読み込みます。
- ☞ **Boot Override**

直ちに起動するデバイスを選択できます。選択したデバイスで <Enter> を押し、**Yes** を選択して確定します。システムは自動で再起動してそのデバイスから起動します。
- ☞ **Save Profiles**

この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できるようになります。最大 8 つのプロファイルを作成し、セットアッププロファイル 1～セットアッププロファイル 8 として保存することができます。<Enter> を押して終了します。または **Select File in HDD/FDD/USB** を選択してプロファイルをストレージデバイスに保存します。
- ☞ **Load Profiles**

システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避けることができます。まず読み込むプロファイルを選択し、<Enter> を押して完了します。**Select File in HDD/FDD/USB** を選択すると、お使いのストレージデバイスから以前作成したプロファイルを入力したり、正常動作していた最後の BIOS 設定 (最後の既知の良好レコード) に戻すなど、BIOS が自動的に作成したプロファイルを読み込むことができます。

第3章 付録

3-1 RAID セットを設定する

RAIDレベル

	RAID 0	RAID 1	RAID 5	RAID 10
ハードドライブの最小数	≥2	2	≥3	4
アレイ容量	ハードドライブの数 * 最小ドライブのサイズ	最小ドライブのサイズ	(ハードドライブの数 - 1) * 最小ドライブのサイズ	(ハードドライブの数 / 2) * 最小ドライブのサイズ
耐故障性	いいえ	はい	はい	はい

始める前に、以下のアイテムを用意してください：

- 少なくとも1台の SATA ハードドライブまたは SSD。(注1)(最適のパフォーマンスを発揮するために、同じモデルと容量のハードドライブを2台を使用することをお勧めします)。(注2)
- Windows セットアップディスク。
- マザーボードドライバディスク。
- USB メモリドライブ

オンボード SATA コントローラを設定する

A. コンピュータに SATA ハードドライブをインストールする

HDDまたはSSDをIntel® チップセット接続のコネクタに接続してください。次に、電源装置からハードドライブに電源コネクタを接続します。

B. BIOS セットアップで SATA コントローラモードを設定する

SATA コントローラコードがシステム BIOS セットアップで正しく設定されていることを確認してください。

ステップ：

1. **Peripherals/SATA And RST Configuration** に移動します。**SATA Controller(s)** が有効であることを確認してください。RAIDを構築するには、**SATA Mode Selection** を **Intel RST Premium With Intel Optane System Acceleration** に設定してください。設定内容を保存し、コンピュータを再起動します。
2. EZ RAID機能を使用するには、「C-1」の手順に従ってください。また、UEFI RAIDを構成するには、「C-2」の手順に従ってください。レガシー RAID ROMを使用するには、「C-3」の項目を参照してください。最後に、設定を保存しBIOS設定を終了してください。



このセクションで説明した BIOS セットアップメニューは、マザーボードによって異なる場合があります。表示される実際の BIOS セットアップオプションは、お使いのマザーボードおよび BIOS バージョンによって異なります。

C-1.EZ RAIDの使用法

GIGABYTEマザーボードは、簡単な手順でRAIDアレイを設定することができるEZ RAID機能することができます。

ステップ：

1. コンピュータを再起動した後、BIOSセットアップに入り、**Peripherals** の **EZ RAID**項目で<Enter>を押してください。RAIDを構築したいディスクドライブを **Type**タブで選択し、<Enter>を押してください。

(注1) M.2 PCIe SSD を RAID セットを M.2 SATA SSD または SATA ハードドライブと共に設定するために使用することはできません。

(注2) M.2および SATA コネクタでサポートされる構成については、「1-7 内部コネクタ」を参照してください。

2. **Mode**タブでRAIDレベルを選択してください。サポートされる RAID レベルには RAID 0、RAID 1、RAID 10、と RAID 5 が含まれています (使用可能な選択は取り付けられているハードドライブの数によって異なります)。<Enter>を押して**Create**タブに移動してください。**Proceed**をクリックして構築を開始します。
3. 完了すると、Intel(R) Rapid Storage Technology 画面に戻ります。**RAID Volumes** に新しい RAID ボリュームが表示されます。詳細情報を見るには、ボリューム上で <Enter> を押して RAID レベルの情報、ストライプブロックサイズ、アレイ名、アレイ容量などを確認します。

C-2.UEFI RAID の設定

Windows 10/8.1 64bitのみUEFI RAID構成をサポートしています。

ステップ:

1. BIOS セットアップで、**BIOS** に移動し、**Windows 8/10 Features** を **Windows 8/10** に、**CSM Support** を **Disabled** に設定します。変更を保存し、BIOS セットアップを終了します。
2. システムの再起動後、再度 BIOS セットアップに入ります。続いて **Peripherals\Intel(R) Rapid Storage Technology** サブメニューに入ります。
3. **Intel(R) Rapid Storage Technology** メニューにおいて、**Create RAID Volume** で <Enter> を押して **Create RAID Volume** 画面に入ります。**Name** の項目で 1~16 文字 (文字に特殊文字を含めることはできません) のボリューム名を入力し、<Enter> を押します。RAID レベルを選択します。サポートされる RAID レベルには RAID 0、RAID 1、リカバリ、RAID 10、と RAID 5 が含まれています (使用可能な選択は取り付けられているハードドライブの数によって異なります)。次に、下矢印キーを用いて **Select Disks** に移動します。
4. **Select Disks** の項目で、RAID アレイに含めるハードドライブを選択します。選択するハードドライブ上で <スペース> キーを押します (選択したハードドライブには "X" の印が付きます)。Stripe Block サイズを設定します。ストライプブロックサイズは 4 KB~128 KB まで設定できます。ストライプブロックサイズを選択したら、容積容量を設定します。
5. 容量を設定後、**Create Volume** に移動し、<Enter> を押して開始します。
6. 完了すると、**Intel(R) Rapid Storage Technology** 画面に戻ります。**RAID Volumes** に新しい RAID ボリュームが表示されます。詳細情報を見るには、ボリューム上で <Enter> を押して RAID レベルの情報、ストライプブロックサイズ、アレイ名、アレイ容量などを確認します。

C-3.Legacy RAID ROMを設定する

Intel® legacy RAID BIOS セットアップユーティリティに入って、RAID アレイを設定します。非 RAID 構成の場合、このステップをスキップし、Windows オペレーティングシステムのインストールに進んでください。

ステップ:

1. BIOSセットアップで、**BIOS**に移動し、**CSM Support**を有効にし、**Storage Boot Option Control**を **Legacy**に設定してください。変更を保存し、BIOSセットアップを終了します。POSTメモリテストが開始された後でオペレーティングシステムがブートを開始する前に、「Press <Ctrl>+<I> to enter Configuration Utility」。<Ctrl>+<I>を押して RAID 設定ユーティリティに入ります。
2. <Ctrl>+<I>を押すと、**MAIN MENU**スクリーンが表示されます。RAID アレイを作成する場合、**MAIN MENU** で **Create RAID Volume** を選択し <Enter> を押します。
3. **CREATE VOLUME MENU** スクリーンに入った後、**Name** の項目で 1~16 文字 (文字に特殊文字を含めることはできません) のボリューム名を入力し、<Enter> を押します。RAID レベルを選択します。サポートされる RAID レベルには RAID 0、RAID 1、リカバリ、RAID 10、と RAID 5 が含まれています (使用可能な選択は取り付けられているハードドライブの数によって異なります)。<Enter>を押して続行します。
4. **Disks** の項目で、RAID アレイに含めるハードドライブを選択します。取り付けられたドライブが 2 台の場合、ドライブはアレイに自動的に割り当てられます。必要に応じて、ストライプブロックサイズを設定します。ストライプブロックサイズは 4 KB~128 KB まで設定できます。ストライプブロックサイズを選択してから、<Enter> を押します。

5. アレイの容量を入力し、<Enter>を押します。最後に、**Create Volume** で <Enter> を押し、RAID アレイの作成を開始します。ボリュームを作成するかどうかの確認を求められたら、<Y> を押し、確認するか <N> を押し、キャンセルします。
6. 完了したら、**DISK/VOLUME INFORMATION** セクションに、RAID レベル、ストライプブロックサイズ、アレイ名、およびアレイ容量などを含め、RAID アレイに関する詳細な情報が表示されます。RAID BIOS ユーティリティを終了するには、<Esc> を押すか **MAIN MENU** で **6. Exit** を選択します。

SATA RAID/AHCIドライバとオペレーティングシステムをインストールする

BIOS設定が正しければ、オペレーティングシステムをいつでもインストールできます。

オペレーティングシステムをインストール

一部のオペレーティングシステムにはすでに Intel® SATA RAID/AHCI ドライバが含まれているため、Windows のインストールプロセス中に RAID/AHCI ドライバを個別にインストールする必要はありません。オペレーティングシステムのインストール後、「Xpress Install」を使用してマザーボードドライバディスクから必要なドライバをすべてインストールして、システムパフォーマンスと互換性を確認するようにお勧めします。インストールされているオペレーティングシステムが、OS インストールプロセス中に追加 SATA RAID/AHCI ドライバの提供を要求する場合は、以下のステップを参照してください。




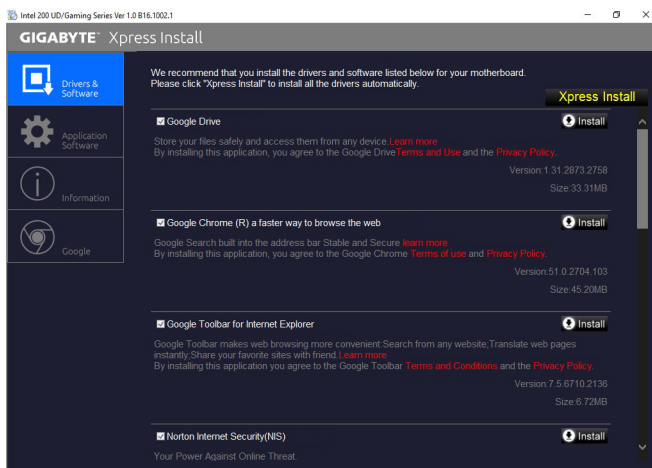
RAIDアレイの構成の詳細については、GIGABYTEのWebサイトをご覧ください。

3-2 ドライバのインストール



- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。(以下の指示は、例として Windows 10 オペレーティングシステムを使用します。)
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードのドライバディスクを光学ドライブに挿入します。画面右上隅のメッセージ「このディスクの操作を選択するにはタップしてください」をクリックし、「Run.exeの実行」を選択します。(またはマイコンピュータで光学ドライブをダブルクリックし、Run.exe プログラムを実行します。)

「Xpress Install」はシステムを自動的にスキャンし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。**Xpress Install** ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が選択されたすべてのドライバをインストールします。または、矢印  アイコンをクリックすると、必要なドライバを個別にインストールします。



ソフトウェアについては、GIGABYTEのウェブサイトアクセスしてください。



オーディオソフトウェアの詳細設定については、GIGABYTEのWebサイトをご覧ください。

規制声明

規制に関する注意

この文書は、当社の書面による許可なしにコピーできません、また内容を第三者への開示や不正な目的で使用することはできず、違反した場合は起訴されることとなります。

当社はここに記載されている情報は印刷時にすべての点で正確であるとし、しかしこのテキスト内の誤りまたは脱落に対してGIGABYTEは一切の責任を負いません。また本文書の情報は予告なく変更することがありますが、GIGABYTE社による変更の確約ではありません。

環境を守ることに対する当社の約束

高効率パフォーマンスだけでなく、すべてのGIGABYTEマザーボードはRoHS(電気電子機器に関する特定有害物質の制限)とWEEE(廃電気電子機器)環境指令、およびほとんどの主な世界的安全要件を満たしています。環境中に有害物質が解放されることを防ぎ、私たちの天然資源を最大限に活用するために、GIGABYTEではあなたの「耐用年数を経た」製品のほとんどの素材を責任を持ってリサイクルまたは再使用するための情報を次のように提供します。

RoHS(危険物質の制限)指令声明

GIGABYTE製品は有害物質(Cd、Pb、Hg、Cr+6、PBDE、PBB)を追加する意図はなく、そのような物質を避けています。部分とコンポーネントRoHS要件を満たすように慎重に選択されています。さらに、GIGABYTEは国際的に禁止された有毒化学薬品を使用しない製品を開発するための努力を続けています。

WEEE(廃電気電子機器)指令声明

GIGABYTEは2002/96/EC WEEE(廃電気電子機器)の指令から解釈されるように国の法律を満たしています。WEEE指令は電気電子デバイスとそのコンポーネントの取り扱い、回収、リサイクル、廃棄を指定します。指令に基づき、中古機器はマークされ、分別回収され、適切に廃棄される必要があります。

WEEE記号声明



以下に示した記号が製品にあるいは梱包に記載されている場合、この製品を他の廃棄物と一緒に廃棄してはいけません。代わりに、デバイスを処理、回収、リサイクル、廃棄手続きを行うために廃棄物回収センターに持ち込む必要があります。廃棄時に廃棄物を分別回収またはリサイクルすることにより、天然資源が保全され、人間の健康と環境を保護するやり方でリサイクルされることが保証されます。リサイクルのために廃機器を持ち込むことのできる場所の詳細については、最寄りの地方自治体事務所、家庭ごみ廃棄サービス、また製品の購入店に環境に優しい安全なリサイクルの詳細をお尋ねください。

- ◆ 電気電子機器の耐用年数が過ぎたら、最寄りのまたは地域の回収管理事務所に「戻し」リサイクルしてください。
- ◆ 耐用年数を過ぎた製品のリサイクルや再利用についてさらに詳しいことをお知りになりたい場合、製品のユーザーマニュアルに記載の連絡先にお問い合わせください。できる限りお客様のお力になれるように努めさせていただきます。

最後に、本製品の省エネ機能を理解して使用し、また他の環境に優しい習慣を身につけて、本製品購入したときの梱包の内装と外装(運送用コンテナを含む)をリサイクルし、使用済みバッテリーを適切に廃棄またはリサイクルすることをお勧めします。お客様のご支援により、当社は電気電子機器を製造するために必要な天然資源の量を減らし、「耐用年数の過ぎた」製品の廃棄のための埋め立てごみ処理地の使用を最小限に抑え、潜在的な有害物質を環境に解放せず適切に廃棄することで、生活の質の向上に貢献いたします。

FCC Notice (U.S.A. Only)

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation. **WARNING:** This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation.

This equipment generates and radiates radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.

However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult a dealer or experienced TV/radio technician for help.

The user may find the following booklet prepared by the Federal Communications Commission helpful: The Interference Handbook.

This booklet is available from the U.S. Government Printing Office, Washington, D.C.20402. Stock No.004-000-00345-4

Notice for 5GHz

Operations in the 5.15-5.25GHz band are restricted to indoor usage only. (For 5GHz only)

RF exposure statement

The product comply with the FCC portable RF exposure limit set forth for an uncontrolled environment and are safe for intended operation as described in this manual. The further RF exposure reduction can be achieved if the product can be kept as far as possible from the user body or set the device to lower output power if such function is available.

CAUTION:

The manufacturer is not responsible for any interference caused by unauthorized modifications and/or use of unauthorized antennas. Such changes and/or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance of this device could void the user's authority to operate the equipment.

Canada-Industry Canada (IC):

This device complies with Canadian RSS-210.

This device complies with Industry Canada license-exempt RSS standard(s). Operation is subject to the following two conditions:

- (1) this device may not cause interference, and
- (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

Ce dispositif est conforme à la norme CNR-210 d'Industrie Canada applicable aux appareils radio exempts de licence. Son fonctionnement est sujet aux deux conditions suivantes:

- (1) le dispositif ne doit pas produire de brouillage préjudiciable, et
- (2) ce dispositif doit accepter tout brouillage reçu, y compris un brouillage susceptible de provoquer un fonctionnement indésirable.

Notice for 5GHz:

Caution :

- (i) the device for operation in the band 5150-5250 MHz is only for indoor use to reduce the potential for harmful interference to co-channel mobile satellite systems;
- (ii) the maximum antenna gain permitted for devices in the bands 5250-5350 MHz and 5470-5725 MHz shall comply with the e.i.r.p. limit; and
- (iii) the maximum antenna gain permitted for devices in the band 5725-5825 MHz shall comply with the e.i.r.p. limits specified for point-to-point and non point-to-point operation as appropriate.
- (iv) Users should also be advised that high-power radars are allocated as primary users (i.e. priority users) of the bands 5250-5350 MHz and 5650-5850 MHz and that these radars could cause interference and/or damage to LE-LAN devices.

Avertissement:

Le guide d'utilisation des dispositifs pour réseaux locaux doit inclure des instructions précises sur les restrictions susmentionnées, notamment :

- (i) les dispositifs fonctionnant dans la bande 5 150-5 250 MHz sont réservés uniquement pour une utilisation à l'intérieur afin de réduire les risques de brouillage préjudiciable aux systèmes de satellites mobiles utilisant les mêmes canaux;
- (ii) le gain maximal d'antenne permis pour les dispositifs utilisant les bandes 5 250-5 350 MHz et 5 470-5 725 MHz doit se conformer à la limite de p.i.r.e.;
- (iii) le gain maximal d'antenne permis (pour les dispositifs utilisant la bande 5 725-5 825 MHz) doit se conformer à la limite de p.i.r.e. spécifiée pour l'exploitation point à point et non point à point, selon le cas.
- (iv) De plus, les utilisateurs devraient aussi être avisés que les utilisateurs de radars de haute puissance sont désignés utilisateurs principaux (c.-à-d., qu'ils ont la priorité) pour les bandes 5 250-5 350 MHz et 5 650-5 850 MHz et que ces radars pourraient causer du brouillage et/ou des dommages aux dispositifs LAN-EL.

Radiation Exposure Statement:

The product comply with the Canada portable RF exposure limit set forth for an uncontrolled environment and are safe for intended operation as described in this manual. The further RF exposure reduction can be achieved if the product can be kept as far as possible from the user body or set the device to lower output power if such function is available.

European Community Directive R&TTE Directive Compliance Statement:

This equipment complies with all the requirements and other relevant provisions of Radio Equipment Directive 2014/53/EU.

This equipment is suitable for home and office use in all the European Community Member States and EFTA Member States.

The low band 5.15 -5.35 GHz is for indoor use only.

Restrictions d'utilisation en France:

Pour la France métropolitaine

2.400 - 2.4835 GHz (Canaux 1 à 13) autorisé en usage intérieur

2.400 - 2.454 GHz (canaux 1 à 7) autorisé en usage extérieur

Pour la Guyane et la Réunion

2.400 - 2.4835 GHz (Canaux 1 à 13) autorisé en usage intérieur

2.420 - 2.4835 GHz (canaux 5 à 13) autorisé en usage extérieur

Notice for Italy:

The use of these equipments is regulated by:

1. D.L.gs 1.8.2003, n. 259, article 104 (activity subject to general authorization) for outdoor use and article 105 (free use) for indoor use, in both cases for private use.
2. D.M. 28.5.03, for supply to public of RLAN access to networks and telecom services. L'uso degli apparati è regolamentato da:
 1. D.L.gs 1.8.2003, n. 259, articoli 104 (attività soggette ad autorizzazione generale) se utilizzati al di fuori del proprio fondo e 105 (libero uso) se utilizzati entro il proprio fondo, in entrambi i casi per uso private.
 2. D.M. 28.5.03, per la fornitura al pubblico dell'accesso R-LAN alle reti e ai servizi di telecomunicazioni.

Taiwan NCC Wireless Statements / 無線設備警告聲明:

低功率電波輻射性電機管理辦法

第十二條: 經型式認證合格之低功率射頻電機, 非經許可, 公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。

第十四條: 低功率射頻電機之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信; 經發現有干擾現象時, 應立即停用, 並改善至無干擾時方得繼續使用。前項合法通信, 指依電信法規定作業之無線電通信。低功率射頻電機須忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。

在5.25-5.35GHz頻帶內操作之無線資訊傳輸設備, 限於室內使用。

Korea KCC NCC Wireless Statement:

5.25 GHz - 5.35 GHz 대역을 사용하는 무선 장치는 실내에서만 사용하도록 제한됩니다.

Japan Wireless Statement:

5.15GHz帯 ~ 5.35GHz帯: 屋内のみの使用。



連絡先

GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.

アドレス: No.6, Baoqiang Rd., Xindian Dist., New Taipei City 231, Taiwan

TEL: +886-2-8912-4000、ファックス+886-2-8912-4005

技術および非技術サポート(販売/マーケティング): <http://esupport.gigabyte.com>

WEBアドレス(英語): <http://www.gigabyte.com>

WEBアドレス(中国語): <http://www.gigabyte.tw>

- **GIGABYTE eSupport**

技術的または技術的でない(販売/マーケティング) 質問を送信するには:
<http://esupport.gigabyte.com>

The screenshot shows the GIGABYTE eSupport website interface. At the top left is the GIGABYTE logo. To the right is the 'eSupport' logo. Below these are navigation icons for 'Downloads', 'FAQ', and 'Warranty'. A 'Sign in with' section features social media icons for Facebook, Google+, and a generic user icon. Below this is the 'GIGABYTE Passport' login form, which includes fields for 'E-mail' and 'Password', a 'Forgot password?' link, and a 'Login' button with a right-pointing arrow. A small link 'Not a member yet?' is located to the right of the 'Login' button. At the bottom of the page, there is a small copyright notice: 'All intellectual property rights, including without limitation to copyright and trademark of this work and its derivative works are the property of, or are licensed to, GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. Any unauthorized use is strictly prohibited.'